

魚病等実態把握指導*

小川 健・木村 創

近年、水産増養殖の急速な進展に伴って魚病被害が増大し、水産増養殖の推進上問題となっている。このため、水産用医薬品の適正使用および防疫措置等の指導により、魚病の発生および蔓延を防止し魚病被害を軽減させるとともに、食品として安全な養殖魚生産の確保を図ることを目的に、国庫補助を受けて次のとおり魚類防疫対策事業および水産用医薬品指導事業を実施した。

1 魚類防疫対策事業

1) 防疫会議等

防疫会議および防疫検討会の開催状況は表1、2に示すとおりであった。

表1 防疫会議開催状況

年月日	開催場所	主な構成員	主な議題
'87. 4. 13	西牟婁郡串本町	水産課 水産増殖試験場 水産業改良普及員 県かん水養魚協会 各地域防疫検討会代表	○水産用医薬品の適正使用 および防汚剤の使用禁止 について ○昭和61年度魚病発生状況 について

表2 地域防疫検討会開催状況

対象海域	年月日	開催場所	主な構成員	主な議題
北部	'87. 12. 8	由良町	水産課 水産増殖試験場 水産業改良普及員 関係漁協 海面養殖業者	昭和62年度の魚病発生状況および 海産魚の繊毛虫症について
中部	'87. 11. 2	白浜町	同上	同上
南部	'87. 12. 18	串本町	//	//
東部	'87. 11. 26	那智勝浦町	//	//

2) 防疫対策定期パトロール

魚病の適切な予防治療対策の指導および漁場の防疫監視のため、毎月1～2回各養殖地域のパトロールを実施した。

3) 魚病発生時の緊急対策

なし

4) 魚病発生防止対策

* 魚病等実態把握指導費による。

(1) 養殖場の定期観測

'87年4月から'88年3月まで毎月1回、各海域の養殖漁場1～2ヶ所で、水温、DO、塩分量、透明度を測定した。

(2) 魚病情報の収集・伝達

ブリ腹水症、越年魚類結節症、変形症、黄だん症およびマダイの繊毛虫症について、県内および他県の発生状況等を県内養殖業者、漁業協同組合、関係県、南西海区水研の間で収集・伝達を行った。

5) 種苗の魚病検査

養殖用種苗を対象にブリ11件、マダイ2件の魚病検査を行った。ブリではビブリオ病が1件、類結節症が10件、合併症が1件で、マダイではビブリオ病と滑走細菌感染症が1件ずつであった。

6) 魚病講習会

なし

2 水産用医薬品指導事業

1) 医薬品適正使用対策

水産課にて実施

2) 医薬品残留検査

出荷のため水揚げされる養殖ブリを対象に背部筋肉中の医薬品残留検査を行った。結果は表3に示すとおりで、医薬品の残留は認められなかった。

医薬品の残留分析は、(財)日本冷凍食品検査協会に委託し、同協会神戸事業所で実施した。

表3 ブリ筋肉中の医薬品残留検査結果

対象魚種	対象海域	対象医薬品の名称(成分)	検体採取年月日	検体数	分析結果
ブリ1年魚	北部	エリスロマイシン	'88.11.12	10	全て検出せず
〃	中部	オキシリン酸	'87.12.24	10	〃
〃	〃	エリスロマイシン	'87.12.24	10	〃